パルシステム生産者・消費者協議会

第28回 通常総会

《次第》

- 1. 開会の辞
- 2. 代表幹事挨拶
- 3. 来賓挨拶
- 4. 議長選出
- 5. 書記任命・議事録署名人選出
- 6. 議案審議
 - 第1号議案 2016年度活動報告並びに決算報告・監査報告承認の件
 - 第2号議案 2017年度活動方針並びに予算案承認の件
 - 第3号議案 役員改選の件
- 7. 議長解任
- 8. 閉会の辞

もくじ

第1号議案	2016 年度活動報告並びに	
	決算報告・監査報告承認の件	1
第2号議案	2017年度活動方針並びに	4 4
	予算案承認の件	
第3号議案	役員改選の件	14
【資料】		16
【規約】		31

第1号議案

2016年度活動のまとめ並びに決算・監査報告承認の件

《2016年度の振り返り》

2016年度は昨年に続き災害の多い1年となりました。とりわけ4月に熊本県で震度7を記録した大規模地震は生消協を含めたパルシステムの産地に甚大な被害をもたらし、農産物の生産・出荷機能のみならず、生産者自身の自宅の倒壊など多くの被害・影響を与えました。これに対し、生消協では会員産地にカンパを募り、47産地より総額2,517,000円が集まり、被災産地に贈呈しました。

このほか、夏場の局地的な大雨は土壌の流出や農産物の生育不良を巻き起こし、北海道のジャガイモ生産者や長崎のタマネギ生産者をはじめ、多くの生産者を苦しめる結果となりました。

また、生消協では TPP 反対を 2 O 1 6 年度の活動方針にも掲げ、一貫してその姿勢 を貫いてきましたが、アメリカ合衆国大統領選挙の影響により一端の終息に至ったもの の、世界情勢、社会情勢に目を向ければ、予断を許さない状況が続いています。

生消協では、生産者と消費者が協力関係を結びながら様々な問題を解決し、今後も相互に発展をしていくために各産地に産地ビジョンの作成を呼びかけてきました。今後は作成された産地ビジョンを活用した産地自身の振り返り、見直し、点検作業と他産地の事例に学ぶ場を設定し、農業をはじめとした生産者と消費者の意見交換、学習機会創出、情勢(課題解決)に柔軟に適応できる人材育成等に取り組むべく以下のように個々の活動について振り返りを行い2017年度の活動方針へと繋げます。

《重点方針と具体的施策》

- I 農業を取り巻く状況に危機感を持ち、「産地ビジョン」作りを通して産地の基盤を 固めます。
 - 会員産地の「産地ビジョン」を取りまとめ冊子を作成します。
 - →第27回総会以降、各産地に作成を呼びかけ、提出された「産地ビジョン」を冊子化しました。作成に際しては、(株)ジーピーエス、(株)パル・ミートの協力を得て、産地会議や目ぞろえ会等で説明・進捗確認を行いました。
 - ② 「産地ビジョン」を通して、産地の取組・課題等を共有します。また、組合員 への情報共有を行い、次年度以降の活動方針に活かします。
 - →ブロック会議や部会活動において、「産地ビジョン」作成のための説明と意見交

換を行いました。

- →青果フォーラムでは、将来のビジョンを作成するための各産地の現状把握として、 課題の共有やパルシステムとの取引に求める課題等について議論を行いました。
- ③ 組合員と共に食料自給力向上に取り組み、TPPに対抗できる産地作りを行います。
- →青果フォーラム、青年農業者交流会において、生産者と消費者が一体となって直 面する課題の共有と今後期待される技術について意見交換を行いました。
- ④ 農業情勢の変化や少子高齢化社会への対応について、牽引する次世代リーダー を育成します。
- →会員産地の若手生産者(20~30代中心)を対象に次世代の若手リーダーを育成するための研修会を開催しました。本研修にはパルシステム連合会、(株)ジーピーエス、(株)パル・ミートの若手職員も参加し、年3回の研修を行いました。
- ⑤ 農業情勢や労働力不足への対応について、国内外の先進事例から学ぶ機会を創出します。
- →幹事研修会において、講師(哲学者・内山節氏、農事組合法人 田尻アグリワーカーズ・佐々木洋志氏)を招き、地方農業の現状と労働力確保について学びました。
- →ブロック会議において、農産物の海外輸出や研修生の受入実態について参加産地間の意見交換を行いました。
- ⑥ 産地発展のための支援を、組合員、パルシステム連合会、(株)ジーピーエス、 (株)パル・ミートが協力して行います。
- →2016年度より生産者運営委員会に(株)ジーピーエス、(株)パル・ミート の実務担当職員が出席し、意見交換等を行いました。
- →生消協の各種会議にパルシステムグループ役職員の参加を呼びかけました。



▲関東・中部ブロック会議でのグループワーク



▲東北・北海道ブロック会議の様子







▲パルシステム東京・江東センター学習会グループワーク

Ⅱ 環境保全型農業を推進します。

- ① コア・フード、エコ・チャレンジ基準農産物の拡大に取り組みます。
- →青果フォーラムにおいて新エコ・チャレンジ基準の運用と次回改定に向けた問題 点の意見出しを行いました。
- ② 環境保全型農業の基本となる、土作りを継続し、化学合成農薬・肥料の削減を進めます。また、資源循環型農業を実践し、生物多様性に寄与する農業を推進します。
- →青年農業者交流会には85名(24産地69名の生産者)が集い、食と農の科学館見学、植物工場つくば実証拠点視察、遺伝資源センター ジーンバンク種子保管庫(茨城県つくば市)にて土作り技術や最新の農業技術について学びました。
- ③ 生産者と組合員が共に学び、環境保全型農業に理解を深める機会を創出します。
- →ブロック会議には消費者幹事、生産者、農業関係者、パルシステムグループ役職 員が出席し、パルシステムの出荷基準に則って環境保全型農業を実践している事 例について学びました。
- →各会員生協で実施している産直連続講座に生産者講師を招聘し、組合員が生産者 から直接学び取る機会を設けました。
- ④ コア・フード、エコ・チャレンジ基準について学び、栽培技術の向上のための 学びの機会を設けます。
- →生消協役員の出席する新農業委員会(2016年7月開催会議)において栽培基準について会員生協を交えた意見交換を行いました。



▲青年農業者交流会の様子



▲関西・以西ブロック会議でのパイナップル圃場視察

- エ パルシステムの「ほんもの実感!」くらしづくりアクションへの取り組みに積極的に参加し、産直の価値や生産者の努力や苦労を消費者に伝えるとともに、供給促進を図ります。
 - ① 産直連続講座や交流を積極的に開催し、コア・フード(有機農業)、環境保全型農業、エコ・チャレンジ基準対応の苦労や価値、異常気象、天候被害等への対策を伝え、組合員との意見交換を行います。また、国産志向を高める学習を行い、飼料米を使用したこめ卵、こめ豚、こめ鶏の普及を後押しします。
 - →産直連続講座を27回開催し、商品の魅力やこだわり、産地の苦労を伝える学習会を開催しました。今年度は合計634名の参加があり、生産物や商品への理解を深めました。
 - ② 部会間で連携できる仕組みづくりを模索します。
 - →生産者運営委員会にてグループワークを行い、部会合同での意見交換を行いました。
 - →青果フォーラムでは野菜部会と果樹部会が合同で実行委員会を立ち上げ、企画・ 運営を行いました。
 - ③ 東京電力福島第一原発事故以降、各産地での放射能低減の取り組みを引き続き行い、福島県民や近県住民の取り組みを伝える学習活動を展開します。
 - →地域の状況に応じ、各産地において必要な取り組みを継続しました。
 - →パルシステム福島、パルシステム千葉で実施している保養の取り組みについて新 農業委員会において報告を行い、出席した生産者幹事が学習しました。
 - →パルシステム東京主催のJAつくば市谷田部産直部会(監査品目:生しいたけ(原木栽培))の公開確認会に生消協役員・消費者幹事が出席し、これまでの取り組みと苦労、今後の展望について学びました。
 - ④ 「ほんもの実感」の学習会や組合員交流会を活用し、同乗体験や職員・組合員学習会を開催し、その効果を検証します。
 - →パルシステム東京・江東センターにて生消協役員の配送同乗研修と、センター職

員を対象とした試食学習会(センター祭を含む)を開催しました。年4回企画として開催し、学習会参加職員累計155名、センター祭来場者数387名となりました。

⑤ 地域活性化や地域創生を目指した6次産業化について学び、情報共有を行います。

→女性生産者交流会においてグループワークを実施し、各産地の情報交換を行いま した。地域による技術の違いや生産物に付加価値をつけて販売する加工について 意見交換を行いました。



▲消費者運営委員会 フィールドワークの様子



▲女性生産者交流会グループワーク



▲パルシステム東京・江東センター研修



▲青果フォーラムの様子

Ⅳ 生産者・組合員・生協職員等の交流を積極的に進めます

- ① 生産者・組合員・生協職員等が協力し、参加する産地や組合員を増やす広報を 行い、相互に学び交流できる学習会を開催します。
- →パルシステムの取引先に対し、生消協加入についての案内を継続しました。
- →2016年度は3産地の新規加入があり、会員産地数は合計169産地(正会員161産地、賛助会員8産地)になりました。
- ② 産地が住民や行政とも連携して、都市・地方のコミュニティ再生に取り組んでいる事例について学びます。
- →幹事研修会において、上野村(群馬県)の事例をもとに、少子高齢化時代の地域

コミュニティと教育、農業について学びました。

- ③ 再生可能エネルギーについて学び、先進事例から学ぶ機会を設定します。
- →生産者運営委員会にて、会員産地において取り組まれているバイオマス発電について情報交換を行い、各産地の取り組み状況と今後の可能性も含め議論しました。
- ④ パルシステム協力会との交流を進め、生産者と組合員、メーカー、物流関係者など異業種との連携を強化します。
- →パルシステム協力会総会に3名の役員が出席し、協力会の活動について学ぶと共 に、会員との交流を行いました。
- →毎月開催の新農業委員会に幹事3名を派遣し、生消協と協力会双方の活動報告を 行うことで内容の共有を行いました。
- →若手リーダー研修に協力会の畑山会長にオブザーバー出席いただき、生消協の取 組について意見交換を行いました。



▲若手リーダー研修(畑山会長挨拶)の様子



▲若手リーダー研修(佐原農産物供給センター視察)

- V 品質向上と求められる農畜産物づくりを継続します。
 - 生産者と消費者の視点を考慮した品質向上の取り組みを継続します。
 - →女性生産者交流会において、ジーピーエスより「商品が組合員の家に届くまで」、 「品質管理について」と題した講演を行い、お届けのタイミングを見越して出荷 をする生産者と、商品を検品する株式会社ジーピーエス(職員)、その商品を購 入する組合員のそれぞれの立場から適切な品質について協議すべく、グループワ ーク(フリートーク)を行い議論を深めました。
 - ② 産地や生産者間での出荷基準の確認・見直しの場の設定など部会での議論を行います。また、生産に関するリスク管理の仕組みづくりを推進します。
 - →青果フォーラムにおいて各産地の問題点について意見交換と課題の共有を行い ました。
 - ③ 生産物の付加価値向上による生産者の所得向上を目指します。
 - →ブロック会議その他各種会議で産地の取り組み報告、産地ビジョン報告を行うことで所得向上のための各種取り組みについて学びました。
 - ④ 産地間連携や産地の現状を伝える学習会を開催します。

- →毎年、カタログ配布前に開催している予約登録米学習会においては、米部会産地 の多くが学習会の講師派遣を行い産地の取り組みや現状を伝える学習会を開催 しています。
- ⑤ 昨年に引き続き、品質向上やコストなど、物流問題を調査・研究します。
- →消費者運営委員会において品質向上に関するテーマを設定したフィールドワークを行いました。学んだ内容を消費者幹事自らが青果フォーラムにて報告し、生産者との意見交換を行いました。



▲女性生産者交流会の様子



▲関西・以西ブロック会議の様子



▲消費者運営委員会 フィールドワークの様子



▲東北・北海道ブロック会議の様子

以上

2016年度 パルシステム生産者・消費者協議会 決算書

貸借対照表 2016年12月31日現在

(単位:円)

資産の部		負債及び剰余金の	O部
普 通 預 金	7,178,371	未 払 金	1,876,051
未 収 金	0	預 り 金	0
立 替 金	0	仮 受 金	0
		流 動 負 債 合 計	1,876,051
流動資産合計	7,178,371	負 債 合 計	1,876,051
		前 期 繰 越 金	7,500,975
		当期 剰余金	△ 2,198,655
		剰 余 金 合 計	5,302,320
資 産 合 計	7,178,371	負債·剰余金合計	7,178,371

損 益 計 算 書 自 2016 年 1月 1日 至 2016年 12月 31日

(単位:円)

会 費 収 入		20,196,741
収 入 計		20,196,741
委 託 費	3,600,000	
通 信 費	2,563,531	
旅費交通費	255,724	
幹事会費	3,422,802	
生産者運営委員	2,998,082	
消費者運営委員	2,308,925	
ブロック会 議 費	2,497,323	
部会活動補助費	1,543,491	
調査研究費	98,638	
会 議 費	1,955,356	
ホームページ運営費	0	
SNS 開 発	0	
事務所負担費	388,800	
会 計 委 託 費	194,400	
渉 外 費	122,005	
顧 問 費	291,691	
国際交流費	0	
消耗品費	77,635	
雑費	78,084	
支 出 計	22,396,487	
事 業 剰 余 金		△ 2,199,746
雑 収 入	1,091	1,091
当期 剰余金		△ 2,198,655
前期繰越金		7,500,975
次期繰越金		5,302,320

2016年度 パルシステム生産者・消費者協議会 予算比較表

自 2016年 1月 1日 至 2016年 12月 31日

		- I	1			(単位:円)
	勘定科目	当期予算額	当期実績額	予算増減額	予算対比	備考
収	会費収入(生産者)	11,000,000	10,966,000	△ 34,000	99.7%	/ / · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
入	会費収入(パルグループ)	9,200,000	9,230,741	30,741	100.3%	生産者パルンステムグループ。
	合 計	20,200,000	20,196,741	△ 3,259	100.0%	
	委 託 費	3,900,000	3,600,000	Δ 300,000	92.3%	事務局人件費
	通 信 費	2,500,000	2,563,531	63,531	102.5%	カタログ発送費=2,000,000 その他通信費=500,000
	(カタログ発送費)	2,000,000	2,231,438	231,438	111.6%	
	(その他通信費)	500,000	332,093	△ 167,907	66.4%	
	旅費交通費		255,724	255,724	0.0%	事務局旅費交通費
	幹 事 会 費	3,850,000	3,422,802	△ 427,198		交通費-2,400,000(会議開催回数5を想定=400,000×5,事務局会 議時の交通費80,000×5) 活動補助費=750,000
	(交通費)	2,400,000	2,188,192	Δ 211,808	91.2%	公開確認会派遣費=500,000 事務局会議費100,000
	(活動補助費)	750,000	739,486	△ 10,514	98.6%	
	(公開確認会派遣)	500,000	299,154	△ 200,846	59.8%	
	(事務局会議費)	200,000	195,970	△ 4,030	98.0%	
	(諸口)	0	0	0	0.0%	
	生産者運営委員会費	3,000,000	2,998,082	△ 1,918	99.9%	人坦克-1,000,000(云磁州在巴敦/// / 加州明夏-200,000
	(交通費)	1,000,000	1,125,292	125,292	112.5%	リーダー研修補助=1,200,000 ほんもの実感!同乗研修=500,000
	(活動補助費)	300,000	289,758	Δ 10,242	96.6%	
	(リーダー研修補助/ほんもの実感)	1,700,000	1,583,032	Δ 116,968	93.1%	
	消費者運営委員会	2,800,000	2,308,925	△ 491,075	82.5%	青年農業者交流会=300,000 女性生産者交流会=700,000 消費者幹事交通費=1,700,000 その他活動費等=100,000
	(青年農業者交流会)	300,000	293,993	△ 6,007	98.0%	
	(女性生産者交流会)	700,000	696,880	△ 3,120	99.6%	
	(消費者幹事交通費)	1,700,000	1,230,173	△ 469,827	72.4%	
支出	(活動補助費)	100,000	87,879	Δ 12,121	87.9%	
ш	ブロック会議費	2,600,000	2,497,323	△ 102,677	96.1%	関東・中部=1,000,000 東北・北海道=800,000 関西・以西=800,000
	(関東・中部)	1,000,000	953,368	△ 46,632	95.3%	
	(東北・北海道)	800,000	757,061	△ 42,939	94.6%	
	(関西・以西)	800,000	786,894	Δ 13,106	98.4%	
	部会活動補助費	1,950,000	1,543,491	△ 406,509	79.2%	部会活動補助総額=1,150,000 産直講座交通費=800,000
	(部会活動補助)	1,150,000	774,639	△ 375,361	67.4%	
	(産直講座交通費)	800,000	768,852	△ 31,148	96.1%	
	調査研究費	100,000	98,638	△ 1,362	98.6%	品質向上対策、購読購入など。
	会 議 費	2,370,000	1,955,356	△ 414,644	82.5%	総会費用=2,000,000 農法研究会=370,000
	(総会費用)	2,000,000	1,578,465	△ 421,535	78.9%	
	(農法研究会)	370,000	376,891	6,891	101.9%	
	ホームページ運営費	100,000	0	Δ 100,000	0.0%	メンテナンス費用他
	SNS 開 発		0	0	0.0%	フェイスブック、ブログなどの情報の相互共有化を強化
	事務所負担費	383,400	388,800	5,400	101.4%	半期毎の支払い
	会 計 委 託 費	191,700	194,400	2,700	101.4%	半期毎の支払い
	渉 外 費	1,000,000	122,005	△ 877,995	12.2%	慶弔関係費、自然災害等の見舞金対応予算 ※1
	顧 問 費	300,000	291,691	△ 8,309	97.2%	会議、企画に応じ必要な方を依頼
	消 耗 品 費	100,000	77,635	△ 22,365	77.6%	封筒作成、文具等
	雑費	100,000	78,084	△ 21,916	78.1%	支払手数料、賛助金、団体会費等=100,000
	合 計	25,245,100	22,396,487	△ 2,848,613	88.7%	
事	業 剰 余 金	△ 5,045,100	△ 2,199,746	2,845,354	43.6%	
	雑 収 入	0	1,091	1,091	0.0%	
剰	余 金	△ 5,045,100	△ 2,198,655	2,846,445	43.6%	
前	期 繰 越 金	7,526,045	7,500,975	0	99.7%	
次	期 繰 越 金	2,480,945	5,302,320	2,821,375	213.7%	%2
**						・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

^{※1} 自然災害等の見舞金対応予算については、該当の災害等が無かった場合は、次期繰越金とします。

^{※2} 翌年の会費が入る前、1~3月の3ヶ月間は、つなぎ資金が必要となります。

監査報告書

2017年2月3.日 パルシステム生産者・消費者協議会 監事 松崎 智明 監事 佐々木 博子

次のように2016年度、年間監査を行いましたので下記にご報告申し上げます。

記

- 1. 監査日時 2017年2月3日(金)11:00~12:30
- 2. 監査の場所 パルシステム連合会 4F会議室
- 3. 監査立会人パルシステム生産者・消費者協議会代表幹事大津清次パルシステム連合会経理部関本真司生消協事務局吉川光洋

4. 監查方法

貸借対照表、損益計算書、総勘定元帳、補助簿等の提出を求め、監査を行いました。

5. 監査意見

会計収支は適正に処理されていることを認めます。

6. 附带意見

・会費収入について、「パルシステム生産者・消費者協議会 会費基準及び旅費・慶弔規 定」では、消費者団体の会費は「当該年度の生消協予算の概ね半分を目安に、会費とし て拠出する」とあるが、生産者とパルグループの会費の差が大きくなっているため、今 後、必要に応じて会費額の検討・修正をされることを望みます。

以上

第2号議案

2017年度活動方針並びに予算案承認の件

《2017年度 方針案》

- I 農業を取り巻く状況に危機感を持ち、「産地ビジョン」づくりを通して産地の基盤 を固めます。
 - ① 「産地ビジョン」冊子を活用し、産地の取組み・課題等を共有します。
 - ② 国産志向を高める学習を行い、食料自給率向上に取り組みます。また、飼料米を使用したこめ卵、こめ豚、こめ鶏の普及を後押しします。
 - ③ 農業情勢の変化や少子高齢化社会への対応について、牽引する次世代リーダー育成を継続します。
 - ④ 女性生産者間の交流の場の拡大と、女性の活躍について学習できる場として女性 生産者交流会への参加を呼びかけます。
 - ⑤ 農業情勢や労働力不足への対応について、国内外の先進事例から学ぶ機会を創出 します。
 - ⑥ 産地がそれぞれの地域や行政と連携して、都市・地方のコミュニティ再生に取り 組んでいる事例について学びます。

Ⅱ 環境保全型農業を推進します。

- ① コア·フード、エコ・チャレンジ基準農産物の生産と消費の拡大に取り組みます。
- ② 化学合成農薬・化学合成肥料の削減による土作りを継続し、生物多様性に寄与する環境保全型農業を推進します。
- ③ より多くの組合員に環境保全型農業への理解を深める機会を作り、消費拡大に努めます。
- ④ エコ・チャレンジ基準の見直しの検討をはじめます。

Ⅲ 農産物の品質向上を目指します。

- ① 生産者と消費者の品質に対する考え方を共有し、品質向上の取り組みを継続します。
- ② 出荷基準の確認・見直しの場の設定など部会での議論を行います。
- ③ 生産に関するリスク管理の仕組みづくりを推進します。
- ④ 生産物の付加価値向上による生産者の所得向上を目指します。
- ⑤ 昨年に引き続き、物流問題における品質向上やコストなど、調査・研究します。

- Ⅳ 生消協および産地の取り組みを「伝え」、「交流する」活動に取り組みます。
 - ① パルシステムの「ほんもの実感!」くらしづくりアクションへの取り組みに積極的に参加します。
 - ② 産直連続講座を始めとした学習会や組合員交流会を積極的に開催します。
 - ③ 東京電力福島第一原発事故以降、各産地での放射能低減の取り組みを引き続き行い、福島県民や近県住民の現状を伝える学習活動を展開します。
 - ④ 配送同乗体験や職員・組合員学習会を開催し、その効果を検証します。
 - ⑤ 再生可能エネルギーについて先進事例から学ぶ機会を設定します。
- V 生消協の価値と取り組みを広め更なる発展をめざします。
 - ① 会員産地を増やすことに努めます。
 - ② 部会間の連携を促進し、産地相互の関係強化と発展を目指します。
 - ③ ホームページを活用し、生消協の取り組みを伝える活動を行います。

(単位:円)

		勘定科目	2017年度予算	構成比	備考
	会	費収入(生産者)	11,000,000	54.5%	
収入		費収入(パルグループ)	9,200,000	45.5%	
^		合 計	20,200,000	100.0%	
	委	託費	3,900,000		事務局人件費
	通	信費	2,500,000	9.9%	7 337 41130
		(カタログ発送費)	2,000,000		
		(その他通信費)	500,000		
	幹	事 会 費	3,450,000	13.7%	
		(交通費)	2,000,000		
		(活動補助費)	750,000		
		(公開確認会派遣)	500,000		
		(事務局会議費)	200,000		
	生	産者運営委員会費	3,300,000	13.1%	
	_	(交通費)	1,000,000		
		(活動補助費)	300,000		
	_	(リーダー研修補助)	1,500,000		
	(Ia	そんもの実感!同乗研修)	500,000		
	消	費者運営委員会	2,800,000	11.1%	
		(青年農業者交流会)	700,000		
		(女性生産者交流会)	300,000		
		(消費者幹事交通費)	1,700,000		
支出		(その他活動費等)	100,000		
出	ブ		2,600,000	10.3%	
		(関東・中部)	1,000,000		
		(東北・北海道)	800,000		
	Ļ	(関西・以西)	800,000		
	部		1,950,000	7.7%	
	_	(部会活動補助)	1,150,000		
		(産直講座交通費)	800,000	0.40/	
	調	査研究費	100,000		品質向上対策、購読購入など。
	会	議費	2,100,000	8.3%	
		(総会費用)	1,700,000 400,000		
	+	(農法研究会)	400,000	0 00/	メンテナンス費用等
	H		383,400		半期毎の支払い
	事 会	務 所 負 担 費 計 委 託 費	191,700		半期毎の支払い
	渉	<u>計 安 武 負</u> 外 費	500,000		〒朔毎の又払い
	_	ドバイザー経費	400,000		度や国际員、日然火音等の元舜並刈心と昇 ※ 1 会議、企画に応じ必要な方を依頼
	消	耗 品 費	100,000		封筒作成、文具等
	_	地ビジョン編集費	800,000	3.2%	**************************************
	雑	費	100,000		支払手数料、賛助金、団体会費等=100,000
	71	合 計	25,175,100	100.0%	AND I AND IN AND IN AND INVOVE
剰		余 金	△ 4,975,100	. 5 5.070	
前		期 繰 越 金	5,302,320		
次		期 繰 越 金	327,220		* 2
		14 12 11	521,220		/n=

^{※1} 自然災害等の見舞金対応予算については、該当の災害等が無かった場合は、次期繰越金とします。

^{※2} 翌年の会費が入る前、1~3月の3ヶ月間は、つなぎ資金が必要となります。

第3号議案

役員改選の件

役員の改選期にともない、役員推薦を行います。

併せて、ブロック役員の承認をお願いします。

【生産者幹事候補】

所属ブロック名	氏名	所属団体(所在地)
東北・北海道ブロック	戸澤 藤彦	花咲農園(秋田県)
東北・北海道ブロック	豊下 勝彦	ポークランドグループ(秋田県)
東北・北海道ブロック	五十川 賢治	大牧農場 (北海道)
関東・中部ブロック	彦坂 誠	神奈川中央養鶏農業協同組合(神奈川県)
関東・中部ブロック	小川 保	JAつくば市谷田部(茨城県)
関東・中部ブロック	雨宮 政彦	山梨御坂くだもの倶楽部(山梨県)
関東・中部ブロック	矢内 克志	沃土会(埼玉県)
関東・中部ブロック	毛利 嘉宏	野菜くらぶ(群馬県)
関東・中部ブロック	鳥居 啓宣	ジョイファーム小田原(神奈川県)
関西・以西ブロック	和田 宗隆	大紀コープファーム (奈良県)
関西・以西ブロック	波床 彰文	さんまる柑橘同志会(和歌山県)
関西・以西ブロック	大津 清次	無茶々園(愛媛県)
青年枠幹事	高橋 直之	庄内協同ファーム(山形県)

【消費者幹事候補】

所属団体	氏 名
パルシステム東京	木村 早苗
パルシステム神奈川ゆめコープ	杉本 祐美子
パルシステム千葉	小田 育美
パルシステム埼玉	小山 三恵子
パルシステム茨城	中山 美江子
パルシステム山梨	梅原 隆子
パルシステム群馬	吉田 澄子
パルシステム福島	佐藤 君枝
パルシステム静岡	細谷 里子
パルシステム連合会	原 秀一
パルシステム連合会	渋澤 温之
㈱ジーピーエス	野村 和夫
㈱パル・ミート	大泉 幸雄

【監事候補】

所属団体		氏名
JAふくおか八女	松崎	智明
パルシステム埼玉	田原	けい子

※会員生協役員改選に伴う消費者幹事変更がある場合は、規約第4条に従い変更する。

《ブロック役員》

◆ 東北・北海道ブロック

ブロック長 (幹事兼任)	五十川 賢治	大牧農場 (北海道)
副ブロック長	鈴木 新	あいづグリーンネットワーク(福島県)
副ブロック長	宮北 輝	宮北牧場(北海道)

◆ 関東・中部ブロック

ブロック長 (幹事兼任)	毛利 嘉	基宏	野菜くらぶ(群馬県)
副ブロック長	飯田 卓	Į	佐原農産物供給センター(千葉県)
副ブロック長	坂入 清	基	茨城産直センター(茨城県)

◆ 関西・以西ブロック

ブロック長 (幹事兼任)	波床	彰文	さんまる柑橘同志会(和歌山県)
副ブロック長	酒井	武信	長有研(長崎県)
副ブロック長	佐藤	隆	やさか共同農場(島根県)

※各専門部会長については、各第1回部会で選任する。

—資 料—

- 2016年度 主要活動日誌
- 幹事会·監査活動状況
- ブロック活動状況
- 生産者運営委員会活動状況
- 消費者運営委員会活動状況
- 配送同乗・センター学習会
- リーダー研修
- 公開確認会活動状況
- ●「産直連続講座」活動状況
- 生消協組織規約、運営規程、会費基準及び旅費・慶弔規程



月	目	会議·企画名	備考
- -	3日	第27回通常総会	日経ホール
3月	4日	会員生協別交流会	各会員生協
8日		第1回消費者運営委員会	
4月	14 日	第1回幹事会	
	14 日	第1回生産者運営委員会	
	9日	第2回消費者運営委員会	
5月	19 日~20 日	上期 関東・中部ブロック会議	静岡県
	6日	第3回消費者運営委員会	
6月	27 日~28 日	上期 関西・以西ブロック会議	沖縄県(真南風)
	30 日	第1回 配送同乗・センター学習会	パルシステム東京・江東センター
	1日	第2回生産者運営委員会	パルシステム東京・江東センター
	4日	第4回消費者運営委員会	
7月	5日~6日	第2回米部会(産地研修・公開確認会)	新潟県(JA 魚沼みなみ)
	13 日~14 日	第1回リーダー研修	株式会社ジーピーエス
	21 日~22 日	幹事合宿・第2回幹事会	お茶の水ホテルジュラク
	1日	第5回消費者運営委員会	
8月	29 日~30 日	女性生産者交流会	29 日:電設年金会館
	29 日~30 日		30 日:会員生協別交流会
	5日~6日	上期 東北・北海道ブロック会議	秋田県(大潟村)
9月	9日	第6回消費者運営委員会(フィールドワーク)	山梨御坂くだもの倶楽部
эл	15 日~16 日	第2回リーダー研修	佐原農産物供給センター
	23 日	第2回 配送同乗・センター学習会	パルシステム東京・江東センター
10 月	3日	第7回消費者運営委員会	
10 /3	13 日	青果フォーラム	お茶の水ホテルジュラク
	1日	第3回生産者運営委員会	
	1日	第8回消費者運営委員会	
	4日	第3回 配送同乗・センター学習会	パルシステム東京・江東センター
11 月	10日~11日	青年農業者交流会	茨城県
	18 日	第3回幹事会	
	22 日	産直ごはんの日	
	21 日~22 日	下期東北・北海道ブロック役員会	東京都
	5日	第9回消費者運営委員会	
	8日~9日	下期関東・中部ブロック役員会	静岡県
12 月	9日	第3回米部会	
	17 日	第4回 配送同乗・センター学習会	パルシステム東京・江東センター
	19 日~20 日	下期関西・以西ブロック役員会	大阪府

		13 日	第10回消費者運営委員会	
		18日	農法研究会	有楽町 朝日ホール
		18日	賀詞交歓会	品川プリンスホテル
1月	1月	19日	下期合同ブロック会議	TKP 東京カンファレンスセンター
		19 日	第4回生産者運営委員会	TKP 東京カンファレンスセンター
		26 日~27 日	第3回リーダー研修	大森東急 REI ホテル
		30 日	第11回消費者運営委員会	
	2月 3日 第4回幹事会		第4回幹事会	

【幹事会】

【幹事会】		
月日	開催場所	議題
		・第 28 回会場(案)について
		・部会活動方針について
		・会員生協会費金額確定の件
		・幹事役割分担(ブロック役員交流)について
4月14日	東新宿事務所	・公開確認会派遣の件
4 7 14 0	会議室	・新農業委員会生消協幹事派遣要請の件
		・ほんもの実感!同乗研修について
		・リーダー研修について
		・新規登録申込について
		・アドバイザー契約の件
	h>++ = 1, 1 = 11, 23	・熊本震災復興支援カンパについて
	お茶の水ホテルジュラク会議室	・産地ビジョン進捗確認について
7月22日		・公開確認会委員派遣費用について
		・新エコ基準について
		・産地ビジョン進捗確認について
		・新年4企画の案内について(公開確認会報告会、農法研究会、賀詞交換会、
		下期合同ブロック会議)
	-t-+c-c	・農法研究会スケジュール案
11月18日	東新宿事務所	·農法研究会講演者案
	会議室	·第28回総会進行案
		·総会役割分担案
		•会員生協別派遣委員案
		・次年度活動方針について
		・産地ビジョン進捗確認について
	本 が中市 水子	・役員改選について
2月3日	東新宿事務所 会議室	・次年度活動方針案について
		・次年度予算案について
		・総会進行案について
L		

\$=\$- \$ -\$-\$-\$-\$-\$-\$-\$-\$-\$-\$-\$-\$-\$-\$-\$-\$-\$-
・アドバイザー契約について
・新規加入について
・2017年度・年間会議スケジュール案

【監査】

月日	開催場所	内容
10月14日	東新宿事務所 会議室	2016年1月1日~6月30日までの半期決算監査
2017年2月3日	東新宿事務所 会議室	2016年1月1日~12月31日までの年間決算監査

【上期ブロック会議】

月日	ブロック	開催場所	概要
			·参加者 88 名(30 産地)
			•受入産地:静岡県
5月19日~20日	関東•中部	静岡県	・受入産地よりプレゼンテーション
			・消費者幹事報告
			・伊豆鶏業・ジョイファーム視察
			·参加者 55 名(18 産地)
	関西·以西	沖縄県	・受入産地:真南風
6月27日~28日			・受入産地よりプレゼンテーション
ОЯ 27 □~26 □			・消費者幹事報告
			・パイナップル、マンゴー圃場視察
			・さんごを守る環境保全活動について学習
			·参加者 82 名(14 産地)
	東北·北海道	北海道 秋田県	・受入産地: 大潟村
9月5日~6日			・受入産地よりプレゼンテーション
			・消費者幹事報告
			・圃場視察

【下期ブロック役員会議】

月日	ブロック	開催場所	概要
			・2016 年度ブロック会議の振り返り
11月21日~22日	東北•北海道	東京都	・2017 年度ブロック会議についての検討
			・役員改選について
			・2016 年度ブロック会議の振り返り
12月8日~9日	関東・中部	静岡県	・2017 年度ブロック会議についての検討
			・役員改選について

===					-
				・2016 年度ブロック会議の振り返り	
	12月19日~20日	関西・以西	大阪府	・2017 年度ブロック会議についての検討	
				・役員改選について	

【生産者運営委員会】

月日	開催場所	議題
		・第 28 回会場(案)について
		・部会活動方針について
4月14日	東新宿事務所	・幹事役割分担(ブロック役員交流)について
4 月 14 日	会議室	・公開確認会派遣の件
		・ほんもの実感!同乗研修について
		・リーダー研修について
		・公開確認会(海外)参加役員の費用負担について
	パルシュニノ東京	・幹事研修会への役員の参加について
7月1日	パルシステム東京	・産地ビジョン進捗報告
/ / /	江東センター 会議室	・部会活動の進捗状況について
		・熊本震災カンパの使用用途について
		・部会ごとにディスカッション(新エコ基準、産地ビジョン、部会活動等)
	東新宿事務所	・産地ビジョン進捗報告
		・2017 年度活動方針について
		・第 28 回総会・フォーラムの講演者について
11月1日		・第 28 回総会の役割分担について
		・会員生協別交流会への委員派遣について
		・産地におけるバイオマス発電等について
		・外国人研修生の受入状況について
		・産地ビジョンについて(提出産地確認、製本スケジュール等)
1月19日	TVD 全議会	・2017 年度活動方針について(意見・要望等)
1 11 19 11	TKP 会議室	·第 28 回総会案内(産地配信版)
		・2017 年度 年間スケジュールの日程調整

【消費者運営委員会】

月日	開催場所	議題
		・年間スケジュールの確認
		・企画別参加委員の割り振り
4月8日	東新宿事務所	・各ブロック会議概要報告
4 7 0 0	会議室	・産直ごはんの日企画案
		・産直連続講座補助について
		・フィールドワークについて

		7020四元市局人
		·女性生産者交流会企画案
		・会員生協会費請求について
		・企画別参加委員の分担
		・年間スケジュールの確認
5月9日	東新宿事務所	・公開確認会参加委員について
	会議室	・フィールドワークについて
		·女性生産者交流会企画案
		・フィールドワークについて
		・女性生産者交流会企画案(会場変更について)
6 8 6 0	東新宿事務所	·JA魚沼みなみ公開確認会(米部会産地研修)
6月6日	会議室	・リーダー研修についての進捗報告
		・年間スケジュールの確認
		・公開確認会への消費者幹事出席について
	東新宿事務所	・フィールドワークについて
7月4日	会議室	・女性生産者交流会について(会員生協開催概要)
	云 硪王 	・年間スケジュールの確認
		・フィールドワークについて
8月1日	東新宿事務所	・女性生産者交流会について
0 7 1 1	会議室	・東北・北海道ブロック会議について
		・青年農業者交流会について
9月9日	フィールドワーク	・品質向上の取り組みに関するフィールドワーク
37,31	フィールドワーク	・対象産地:山梨御坂くだもの倶楽部(山梨県)
	東新宿事務所	・フィールドワーク各委員まとめ
10月3日		・青果フォーラムでの報告について
10 7 3 1	会議室	・消費者運営委員会・生産者運営委員会での協議内容について
		・生消協 次年度活動方針について
		・2017 年度活動方針について(意見・要望等)
11月1日	TKP 会議室	・第28回総会・フォーラムの講演者について
		・総会の役割分担について
	東新宿事務所	・第28回通常総会議案書について
12月5日		・農法研究会について
	会議室	・総会スケジュールについて
		・2017 年度活動方針について(会員生協意見集約)
		・農法研究会について
2017年1月13日	東新宿事務所3日 会議室	・下期合同ブロック会議について(役員改選等)
2017 7 17 10 1		・総会進行案について
		・会員生協別交流会について
		・2017 年度 年間スケジュールの日程調整

	4 8 00 8		・2016 年度活動のまとめについて
		東新宿事務所	・2017 年度活動方針について
	1月30日	会議室	・総会について(進行案/会員生協向け案内)
			・2017 年度 年間スケジュールの日程調整

【配送同乗・センター学習会】

月日	企画	協力産地
6 日 20 日	77.4	・山梨御坂くだもの倶楽部、佐原農産物供給センター、JAささかみ、JAつくば市
6月30日	第1回	谷田部、株式会社野菜くらぶ
9月23日	第2回	・ポークランドグループ、サンファーム、沃土会、やさと農協、長有研
11月4日	第3回	・大牧農場、花咲農園、大紀コープファーム、やさか共同農場、あいづグリーンネ
11 7 4 1		ットワーク
12月17日	第4回(センター祭)	・花咲農園、サンドファーム旭、ジョイファーム小田原、JAつくば市谷田部、JAさ
12 71 17 11		さかみ(郷土料理教室を含む)

【リーダー研修】

月日	企画	内容	
	第1回	・講演①「社会情勢について」 志波早苗氏	
C E 20 E		・講演②「パルシステム生協における生消協の位置づけと役割」 川西弘泰氏	
6月30日		・グループワーク	
		・ジーピーエス視察	
	第2回	・産地ビジョン報告	
9月23日		・佐原農産物供給センター視察	
		・グループワーク	
	第3回	・グループワーク	
11月4日		・リーダー研修のまとめ	

【公開確認会】

月日	開催地	公開確認会開催産地名	公開確認会開催産地名監査品目		
7月5日~6日	新潟県	JA 魚沼みなみ	エコ・魚沼コシヒカリ	連合会	
9月27日(監査人のみ)	苯 提用	JA つくば市谷田部	原士!!\ <i>t-</i> !+	パルシステム東京	
9月28日	茨城県	産直部会	原木しいたけ		
10月3日~9日	フィリピ	フィリピン ATC	バランゴンバナナ	パルシステム連合会	
10 7 3 1 1 9 1	ン	JA JE JAIO	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	ハルンス)公廷ロ云	
10月26日(監査人のみ)	长 士目	とちのみ会	いちご	パルシステム埼玉	
10月27日	栃木県	こののの女	いりこ	ハルンステム埼玉	

1月25日(監査人のみ)	静岡県	JA 遠州中央	天使のキャベツ	パルシステム静岡	
1月26日	評 脚 乐	I DA 逐州中央	大使のキャペク	ハルンステム評画	1

【産直連続講座】

	開催日	会員生協	開催産地名	講義内容	参加人数	
				・大牧農場五十川氏から産地紹介、栽培のこだわり・取り組		
				み、原料に使用されている PB 商品の紹介などを学んだ。		
				・昼食交流の際には、大牧農場のじゃがいもを使用した、食育		
				サポーターによるじゃがいも料理と、2015 年度パルシステム		
1	4月12日(火)	埼玉	大牧農場	埼玉組合員開発協力商品『大牧農場のポテトグラタン』の試	21 名	
	10:00~12:00			食。		
				・『大牧農場のポテトグラタン』の開発に携わった商品開発チ		
				ームメンバーから、商品のコンセプトや開発までの苦労、こだ		
				わった点について説明。		
				·JA 全農たまごの増永氏より鶏卵の基本構造、二黄卵、血卵		
				(ブラッドスポット)、肉斑(ミートスポット)、卵白の白濁、卵黄色、		
				卵黄の凝固、二重卵、軟卵殻卵、卵殻異常、ピンホール、など		
	4月15日(金)	与自	# n e	について、花兄園代表取締役の大須賀木氏より卵と震災の影	10.57	
2	10:00~12:30	福島	花兄園	響について講演。	19名	
				・厚焼き卵のトーストサンド・トマトとたまごのスープ、こんせん		
				プレーンヨーグルト(いちご・バナナ)に加え、持参していただい		
				たプリンを試食した。		
		山梨		・真南風の夏目氏より「沖縄からお届けするマーサンムン」に		
	5 E 21 E (1/1)			ついて講演。		
3	5月31日(火) 10:00~12:00		真南風	・パイナップルの上手なカットの仕方や、パイナップルの簡単	30 名	
				レシピの紹介をしていただき、その後各グループごとに試食を		
				行った。		
				・天気、気温の影響により、今年のマンゴーの収穫量が激減し		
				ておりマンゴーの試食の用意は難しいということで、パイナッ		
				プルに焦点をあてた学習会とした。		
				・真南風夏目氏から産地紹介、栽培のこだわり・取り組み、台		
	7月8日(金)			風などの沖縄特有の苦労などを資料に沿って丁寧にお話い		
4	10:00~12:00	埼玉	真南風	たたいた。	28 名	
	10.00* 12.00			・パイナップル3種類の試食を兼ねて、パイナップルを丸ごと		
				買った場合のカット方法の紹介		
				・昼食交流時には、食育サポーターの調理したパイナップルス		
				ムージー、豚肉とゴーヤの沖縄風しょうが焼き、オクラのゴマ		
				和えを試食。		

5	7月15日(金) 10:00~12:30	福島	ポークランド グループ	・学習会ではパル・ミートよりパルシステムの豚肉の特徴について、ポークランドより会社概要や企業理念、室内型放牧飼育の取り組み、飼料米などについて講演。 ・試食交流では冷しゃぶ&サラダ、雑穀ごはん、トマトと卵とわかめのスープ、すいかを試食しました。特に冷しゃぶサラダがとても好評だった。	
6	7月19日(火) 10:30~12:30	東京 花兄園		・花兄園設立までの経緯や名前の由来。創始者の想い。花兄園のこだわりや市販たまごとの違い。福島県大熊町で被災した花兄園の過去と現在の講演。 ・たまごや鶏に関するQ&A(普段聞きにくい)を行った。	27 名
7	8月26日(金) 10:30~14:00	千葉	オルター・トレード・ジャパン	・オルター・トレード・ジャパンの概要、フェアトレード、民衆交易、バナナの生産、産地の取り組みや成り立ちなどの説明があった。バナナのクイズも交えながら子どもたちも楽しく学んだ。 ・調理・昼食交流はバナナ入りドライカレー、バナナケーキ、バナナヨーグルト、バナナチップスを試食した。	26 名
8	8月25日(火) 10:00~12:00	埼玉	花兄園	・夏休み親子参加企画として実施。 ・花兄園の産地紹介を大須賀裕氏より、たまごについて(鶏の体内で卵ができる様子、有精卵・無精卵の違い etc)のお話を全農たまご増永義子氏からお話いただいた。今回は試食用のたまごの他に、二黄卵や無黄卵、奇形卵、生産者も中々見ない無殻卵などを持参いただき、さわったり実際に割卵してみることにより、食卓に届くたまごは機械的に造られたものではなく自然の中で生まれたものだということの理解に繋がった。・昼食交流ではのスクランブルエッグ調理した。	25 名
9	9月12日(月)10:00~12:40	茨城	うもれ木の会	・三扇商事の佐藤氏から、うもれ木の会の歴史やパルシステムへの出荷、エコ・チャレンジへの取り組みなどの講演。 ・みちのく野菜倶楽部からは、みちのく野菜倶楽部の歴史や概要、きゅうりのお話があった。	20 名
10	9月20日(火) 10:30~12:30	東京	なかむら農園	・なかむら農園におけるぶどう作りの1年を学んだ。 ・デラウェアを使いジュース作りを行った。	26 名
11	9月26日(月) 10:30~12:30	福島	アップルファ ームさみず	・アップルファームさみずの誕生の経緯や、安心・安全を願う 気持ちは生産者も消費者も同じであるという考え方について お話があった。 ・「蜜りんご=甘い」は嘘であるなど、私たちが信じ込んでる間 違えについてもお話があった。 ・アップルトースト・冷しゃぶサラダ・信濃ドルチェ・プリン・卵ス ープのランチをした。	13 名

			鹿児島くみあ	・パルシステムの産直鶏に関するご説明をいただき、鹿児島く		
10	10月7日(金)	± ⊤	いチキンフー	みあいチキンフーズの紹介、加工品の紹介を行った。	00 5	
12	10:00~12:30	埼玉	ズ、全農チキ	・全農チキンフーズ井上氏よりローストチキン用丸鶏の切り分	20 名	
			ンフーズ	け方の実演講座を行った。		
				・午前は一般組合員を、午後は理事を対象とした運営。		
				・みかんの有機栽培から始まった無茶々園の原点、40年を経		
	10 🗆 10 🗆 (-14)			た活動の成果、そして10年後見据えた取り組みとしてF(食料)		
10	10月12日(水)	-	布女 名国	E(エネルギー) C(福祉)W(雇用)を地域で自給する町づくり"農	28 名	
13	10:00~12:00/	神奈川	無茶々園	福連携"の取り組みについて講演があった。	/21名	
	13:30~15:30			・午前はちりめん漁師によるワークショップを通してゆたかな		
				海を実感し里山と海との関係を学び、午後は、理事との意見		
				交換の時間を設けた。		
	10 = 14 = (4)		九十八二 羊頭	・タカハシ養鶏場の高橋氏と連合会・産直開発課吉村氏より		
14	10月14日(金)	群馬	タカハシ養鶏	学習会を行った。	13名	
	10:00~12:00		場	・市販品との見比べ・試食、卵焼きと釜玉うどんを試食した。		
				・BMW技術を利用した環境保全型農業に力を入れる金谷氏		
4.5	10月18日(火) 10:30~12:30	**	謙信の里	の講演を行った。	05.47	
15		東京		・金谷氏の作った新米と漬物・田舎味噌を使った味噌汁の試	35 名	
				食を行った。		
	10月20日(木) 10:00~12:00	群馬	青木農園	・青木農園の歴史や産地の概要、りんごの特徴とこだわり等		
16				のお話があった。	10 27	
10				・試食交流として、りんごの食べ比べ・りんごとさつまいものバ	18名	
				タ一焼きを試食した。		
	10月25日(火) 10:00~13:00			・までっこ鶏のこだわりから農場の取り組み、日本型畜産への		
			までっこチキン生産者連絡	取り組みなどを映像を見ながら学習した。資源循環への取り		
17		群馬		組みからバイオマス発電事業、パルシステムでんきについて	30 名	
'		4千/初		周知を図った。	30 10	
			協議会	・調理・試食交流として、とりハムサンド、おにぎらず、もも肉の		
				塩コショウ焼きを試食した。		
				・平飼いたまごや有機野菜の生産、加工品の生産などを、パ		
				ワーポイントを使用して説明があった。その他、都会の子ども		
18	10月28日(金)) 茨城	 白州郷牧場	たちを対象に泊まり込みで鶏や牛の世話、畑仕事の体験をお	23 名	
10	10:00~13:00	沙坝	口加級权场	こなう「キララの学校」の運営や教育ファーム、みそ作り教室・	23 12	
				麹造り教室などの食育活動にも力を入れていることが語られ		
				<i>t</i> =。		
			までっ ~チキ	・までっこチキンの取り組みをパワーポイントで説明の後に、		
19	11月1日(火)	山梨	までっこチキン生産者連絡協議会	鳥の解体実演を行い、組合員さんに部位の説明を行った。	20 名	
18	10:00~13:00	<u>ш</u> ж		・甲府センターサポーターのレシピによる調理講習会、生産者	40 1	
				も交えて調理の実演と試食会を行った。		

				・JA ささかみの概要、減減の取り組みやこだわり、田んぼの		
				生き物調査(メダカやホタルなど)や交流ツアーについて等の		
	11月10日(木)	- **		紹介があった。		
20	10:30~14:00	千葉 	JA ささかみ	・調理・昼食交流では、おにぎり(エコ・新潟こしひかり)、のっ	14名	
				ペ、豆腐のみそ漬け、豆腐便利つゆ煮、冷奴、味噌汁(※豆		
				腐はいずれも「うめてば豆腐」を使用)をメニューとした。		
				・「庄内協同ファーム」の歴史、環境に配慮した取り組みやお		
0.1	11月14日(月)	**	庄内協同ファ	米以外の加工品、田植え体験や生き物観察会などの組合員	25.5	
21	10:00~13:00	茨城 	ーム	交流等について紹介された。	27 名	
				・昼食メニューの「もちカツ」は大好評だった。		
				・士別農園、多寄有機農業研究会の概要やあゆみ、パルシス		
	11 P 17 D (+)		士別農園、士	テム千葉との繋がりや交流の歴史、「士別みそ」やエコ栽培の		
22	11月17日(木)	千葉	別市多寄有機	取り組み、こだわりなどの講義があった。	28 名	
	10:30~14:00		農業研究会	・調理・昼食交流では、狩鍋、かぼちゃの春巻き、たまねぎと		
				鮭トバのマリネ、いも団子をメニューとした。		
				・ささかみ地区の環境保保全型農業への取り組み、パルシス		
23	11月17日(木) 10:00~13:00	群馬	JA ささかみ	テムとの産直事業のあゆみ、田植えツアー等の組合員とのつ	13 名	
23				ながりについて学習した。	10 10	
				・しめ飾り作りと新米の試食も行った。		
	11月29日(火) 10:30~12:30	東京	あゆみの会	・「科学的に分析された生産方法」や「植物と人間の仕組みの	33 名	
24				対比」などのお話があった。		
24				・有機野菜(れんこん・人参・大根・ミニトマト)を手作りのバー	JJ 10	
				ニャカウダソースを付けて試食した。		
				・企業概要や企業理念、抗生物質や抗菌剤を使わない養豚を		
				核とした循環型農業や環境負荷低減、耕作放棄地での有機		
	12月2日(金)		ポークランド	農作物の生産等について幅広く学習した。		
25	10:30~13:30	茨城	グループ	・利益や効率を重視して成長ホルモン剤を投与し生産率を上	15 名	
	10.00			げている生産者がいること、より美味しい食肉を製造するため		
				に軟化剤や結着剤を使用し加工している企業があることな		
				ど、参加者が驚くような内容の話があった。		
				・JAいわて花巻東和支部の菊池氏と小原氏より、産地の特		
				徴、米作りのこだわり、岩手県における雑穀の生産割合等に		
	12月16日(金)		JA いわて花	ついて話があった。		
26	10:30~12:30	福島	巻	・試食では、「岩手ひとめぼれ・エコチャレンジ」のご飯と十二	14名	
			₹	穀米を入れたご飯、発芽玄米を入れたご飯の試食した。		
				・実際の商品を見ながら、雑穀米や発芽玄米の炊き方の説明		
					があった。	

							ē
		1月17日(火)	千葉	菜の花エッグ	・梅原代表より、菜の花エッグの概要や雛の育成から卵の生		
					産・パッキング・配送までの一貫生産システム、管理体制や、		
					開放鶏舎、こだわりなどをクイズを交えて講義があった。		
	27				・連合会の吉村氏より、資料を用いてパルの産直たまごの特	19 名	
27	21	10:30~14:00	T 朱		徴や優位性など説明した。	19 12	
					・調理・昼食交流は、究極のたまごかけごはん、スパニッシュ		
					オムレツ・パル風、スタッフド・エッグ、産直玉子のふわふわス		
					一プ、産直たまごのプリンを試食した。		

※2017年1月17日までの開催状況

以上

会員生協活動の記録

【パルシステム東京】



なかむら農園



・すすき牧場

【パルシステム神奈川ゆめコープ】



・無茶々園



・無茶々園

【パルシステム千葉】



・士別農園



・士別農園

【パルシステム埼玉】



• 花兄園



・鹿児島くみあいチキンフーズ

【パルシステム茨城】



うもれ木の会



・庄内協同ファーム

【パルシステム群馬】



・JA ささかみ



• 大牧農場

【パルシステム山梨】



・真南風



・までっこチキン生産者連絡協議会

【パルシステム福島】



・ポークランドグループ



・佐原農産物供給センター

【パルシステム静岡】



• 花咲農園

パルシステム生産者・消費者協議会

運 営 規 程

(総則)

第1条

パルシステム生産者・消費協議会(以下、生消協)の運営規程は、加入者の意志と参加を 前提として別紙の機構図にあるように会員相互の円滑な意志疎通と目的達成のために民主 的な運営を保証するものである。

(総会)

第2条

生消協会員は、平等の権利を有し1会員1名の議決権は総会において保証され、総会は原則として年一回開催されるものとする。

(幹事会)

第3条

この会は次の内容で開催する。

- 1. 幹事会は会規約により選任された幹事で組織する。
- 2. 幹事会は生産者から代表幹事1名、消費者から副代表幹事1名を選任する。なお必要 に応じて生産者から代表代行幹事1名を置くことができる。
- 3. 幹事会は代表幹事が召集する。
- 4. 幹事会は総会で決議した方針に基づき、日常の運営にあたる。
- 5. 原則として年4回の幹事会を開催する。別途必要に応じて臨時幹事会を開催することができる。

(監事会)

第4条

- 1. 監事は、監査について相互の連絡、協議、意見統制及び決定のために監事会を置く。
- 2. 監事は、代表監事1名を監事会において互選する。

(生産者運営委員会)

第5条

■生産者運営委員会

- 1. 生産者幹事、ブロック役員、各部会長をもって組織する。
- 2. この会には委員長1名をおく。
- 3. 会の招集は委員長が行い、年3回以上の会議を開催するものとする。
- 4. 会の目的は生産者のネットワーク組織のまとめ役とし、生産者の自立的課題の整理をする。

■地域ブロック

- 1. ブロックは、東北・北海道ブロック、関東・中部ブロック、関西・以西ブロックとする。
- 2. 各ブロックはブロック長・副ブロック長を選任する。但し兼任はできない。
- 3. 各ブロックは、年数回のブロック会議開催と、生産者同士の地域的つながりの強化と

連帯を図る。また個々の生産者同志の意見交流、情報交換を行い生産向上に生かすものとする。

■専門部会

- 1. 米、野菜、果樹、畜産、鶏卵の5つを専門部会とする。
- 2. 各部会は互選により部会長1名を選任する。兼任はしない。必要に応じて副部会長を おくことが出来る。
- 3. 各部会ごとに年1~2回の部会を開催し、各品目ごとの課題解決に向けて学習、検討、 実験などを行う。

■その他

必要に応じて幹事会の基に特別プロジェクト又は委員会を設置することが出来る。

(消費者運営委員会)

第6条

- 1. 消費者幹事をもって組織する。
- 2. この会は、組合員や会員生協の要望、意見他を生消協議会全体に反映させるためのまとめ役を行う。
- 3. 部会は必要に応じて開催するものとする。

(事務局)

第7条

- 1. 生消協の運営を円滑に進めるために事務局を置く。各種企画は、その都度実行委員会を組織してこれにあたる事ができる。
- 2. 代表の下に事務局会議を設置する。
- 3. 事務局会議メンバーは、代表幹事が指名し、会の円滑運営を目的として開催する。

パルシステム生産者・消費者協議会

会費基準及び旅費・慶弔規程

(会費基準)

第1条

① 生產者団体

- 1. 生産者会費は最低会費を 1 万円としパルシステム連合会との前年度の年間取引高に基づき算定する。
- 2. 生産者会費基準はパルシステム仕入れ金額とする。但しわかりにくい場合は産地と相談する。

②消費者団体

- 1. 当該年度の総会で決定した予算に沿って、算定方法の基準により生・消協幹事会で確定する。
- 2. 会員生協の会費の確定方法は、原則として以下とする。
 - (ア)消費者側(会員生協・連合会・子会社)は、当該年度の生・消協予算の概ね半分を目安に、会費として拠出する。
 - (イ) 会員生協総額、連合会、子会社の拠出額については幹事会で決める。
 - (ウ) 会員生協会費は、パルシステム (無店舗事業に限定) の当該年度の3月末登録組合員の数値 (Web サーバーから抽出) を用い、その数値に応じて会員生協ごとに按分して負担する。

(会費払込)

第2条

- 1. 生産者側団体の会費の払い込みは、当該年度の7月末までに各団体へ請求書を発行し、9 月末日までに行うものとする。
- 2. 消費者側団体の会費の払い込みは、当該年度の4月15日までに各団体へ請求書を発行し、 4月末日までに行うものとする。
- 3. 賛助会員の会費額は別途相談する。
- 4. 取引高比例会費基準は以下とする。

基準	基準 会費額		会費額
10億円超	250,000円	5千万円超	50,000円
5億円超	200,000円	3千万円超	30,000円
3億円超	150,000円	1 千万円超	20,000円
1億円超	100,000円	1千万円以下	10,000円
7千万円超	70,000円		

(役員·事務局旅費支給規程)

第3条

- 1. 生消協幹事会・生産者運営委員会・消費者部会・事務局又は会として認められるその他会合への出席のための旅費の支給は本規定による。
- 2. 交通費はその都度申告しあらかじめ指定された口座に振り込む。
- 3. この規定の変更は幹事会の議決により行う。

(慶弔規程)

第4条

- 1. 生消協の関連団体の慶弔に関する事項は、この慶弔規定による。金額などの裁定は代表が決定する。
- 2. その他生消協関連団体の慶弔については、原則として生消協が会員を代表して行うものとする。
- 3. この規定の変更は幹事会の議決により行う。

(事務局)

第5条

- 1. 事務局の選任は幹事会が行う。
- 2. 雇用は連合会が行う。
- 3. その他必要事項については幹事会が裁定する。

パルシステム生産者・消費者協議会

組織規約

1990年設立総会 制定 2001年第12回総会 一部改訂 2006年第17回総会にて補強 2007年第18回総会 一部改訂 2011年第22回総会 一部改訂 2013年第24回総会 一部改定 この規約は、2013年3月7日より施行する

(名称)

第1条 この会は「パルシステム生産者・消費者協議会」と称する。

(目的)

第2条 この会は、パルシステム連合会とそれを構成する会員ならびに産直活動を進める生産者が、 農業や食の問題を共通の課題とし、それぞれが生活者として相互連携し、それぞれに生き る「地域」を安全且つ豊かな「暮らしの場」とすることを目指し活動することを目的とす る。

(構成)

第3条 この会は、パルシステムと産直活動を進めている生産団体・個人ならびに会員生協、連合 会、(株) ジーピーエス、(株) パルミートをもって構成する。

(役員)

第4条 この会は、その運営および監査のため、幹事および監事若干名をおく。

【幹事】

幹事は生産者と消費者双方から、同人数を基本とする。その選任は、生産者は各ブロック、消費者は会員生協及びパルシステムの推薦によるものとし、総会で選任するものとする。 但し、消費者幹事は会員生協の都合により幹事会の承認を得て交代できることとする。 任期は2年とし、再選を妨げない。なお、役員の定数については年度ごとに幹事会で決める。

【監事】

監事は毎運営年度2度以上、会の財産および幹事の運営執行状況を監査しなければならない。監事については生産者1名・消費者1名とする。

(会費)

- 第5条 会費は、原則として事業高や構成員の数で決定し、個人・団体の特別会費の納入を妨げない。また、その額は別途定める。
 - 2 会員に特別の事情がある場合は、幹事会の承認を得て、会費納入を免除することができる。

(運営)

- 第6条 運営については、別途「運営規程」に定める。
 - 2 運営年度は、2月1日より翌年1月末日までとし、毎年一回以上総会を開く。

(所在地及び事務局)

第7条 所在地及び事務局は、東京都内におく。

(改廃)

第8条 この規約の変更は、総会の決議によらなければならない。